

## ラウンドテーブルV報告

## 障害児教育において音楽の教科書を有効に活用するにはどうしたらよいか

齋藤一雄（上越教育大学）

障害児教育において、音楽の教科書として使用できるものには、次の3種がある。

ア 文部科学省検討教科書

イ 文部科学省著作教科書（養護学校用）

ウ 107条本（学校教育法第107条及び同施行規則第73条の2）①下学年使用の教科書、②絵本などの一般図書）。

イの養護学校用音楽科教科書は、1964年に作成され、その後、学習指導要領の改訂に伴い、何回か部分的に改訂されている。教科書は、小学部用の『おんがく☆』『おんがく☆☆』『おんがく☆☆☆』、中学部用の『音楽☆☆☆☆』の4種である。これらの教科書の特徴は、主に楽曲とさし絵で構成されているところにある。

各教科書には、子どもたちの心と身体を解きほぐし、人とのコミュニケーション活動の活発化を促し、音楽表現につながる基礎を確立したり、より活発な音楽表現への展開を図ることができたり、より豊かな表現や聴き方ができる活動に発展していくことができたりする教材が豊富に用意されている。

しかし、実際には、養護学校においては、教科書の存在についてあまり知られていない、活用されていない現状が見られる。

そこで、障害児教育において音楽の教科書を有効に活用にはどうするかについて討論を行った。

### 1. 教科書の活用紹介と提案

山本久美子会員（山梨県立かえで養護学校）による「鑑賞、身体表現、器楽を関連させた音楽の指導～音楽☆☆☆☆から『ペルシャの市場にて』（ケテルビー）～」の実践が紹介された。

小学部6年生を対象に、情景や登場人物等をイメージして聴く、得意な表現方法の選択と苦手な表現への挑戦、情動の発散や沈静、音楽の聞き分け、発声や身体運動の活発化と調整、相手とのやり取りや役割取得などをねらいとした実践である。

初めにビデオで実践が紹介され、子どもたちの感覚と運動の高次化からみた発達の特徴、「ペルシャの市場にて」の曲の構造分析、表現方法の選択と工夫、音楽を活用する視点（音楽療法）から、教科書の有効な活用について提案された。

また、意図的な計画と実践の予測をもちながら実践に取り組んだが、実際に子どもたちとやり取りするなかで、予測を越えた子どもたちの反応がみられ、その反応に即応した教師の支援や働きかけが行われた。子どもの反応に合わせて音楽を即興的に変化させたり、見ることから聴くことに移行したり、音は消えることによって沈黙の世界にかえっていくことに気づかされたりした。

最後に、授業を行う教師が、対象となる子どもたちの実態に即して、明確な意図を持って、教科書の教材を選択していくことが重要で、そのときに「教科書解説」にある教材の活用例を参考にすることが有効であることが提案された。

### 2. 討議内容

「ペルシャの市場にて」はオーケストラ曲であるが、子どもたちの表現や活動に合わせることができるよう、ピアノの生演奏で音楽を提供した。そのために、子どもたちの動きに柔軟に対応することができていた。また、自分のペースで音楽表現を変える子どもに、即興的に音楽を変化させながら合わせていくことにより、自分とは違う他者や音楽があることに気づくようにすることもできた。

また、「ペルシャの市場にて」には、情景や登場人物ごとにいくつかの音楽があり、その中から自分にあつたものを選択できる教材となっている。そして、友だちとかかわりあいながら、器楽や身体表現によって曲全体を作り上げていく活動ができる教材であった。

そして、障害児の音楽の授業では、子どもたちの誰もが受け止められるような音楽やそれぞれ好きな音楽を用意することが必要であると討議された。

### 3. 今後の課題

障害児それぞれが受け止められる音楽や好きな音楽を用意するためには、一人一人の子どもにとっての心の動きや表現を教師がどう読み取っていくかが大事である。さらに、教科書や教科書解説等を活用し、子どもの実態に見合った教材をから見つけ出し、実践した結果を集めていくことが課題である。